

経営比較分析表（令和5年度決算）

佐賀県 唐津市

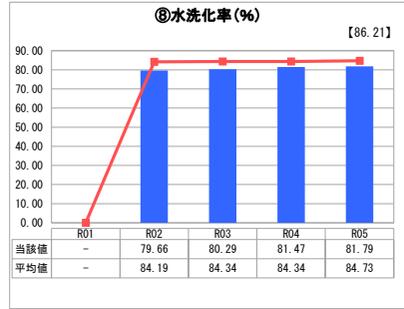
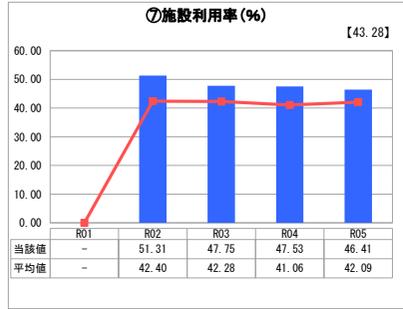
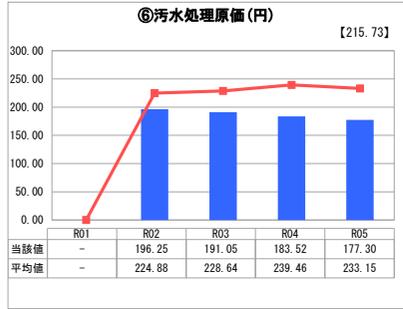
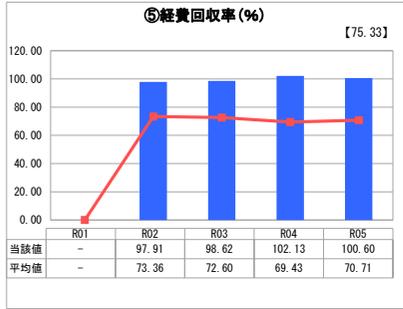
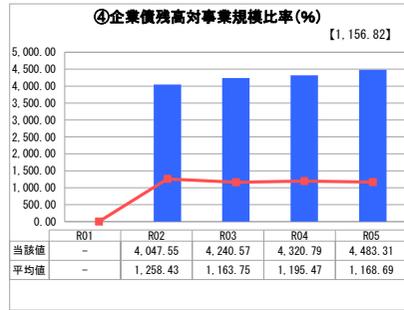
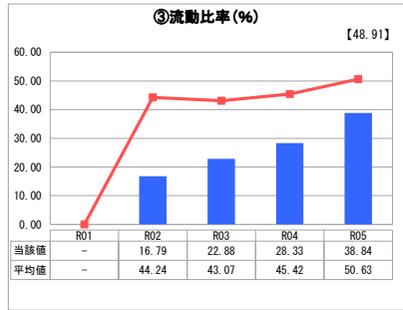
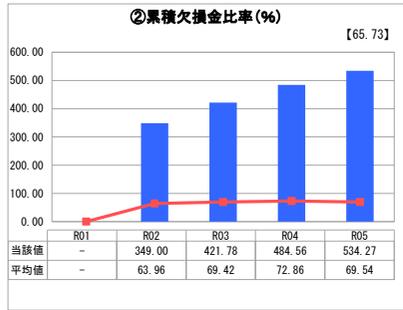
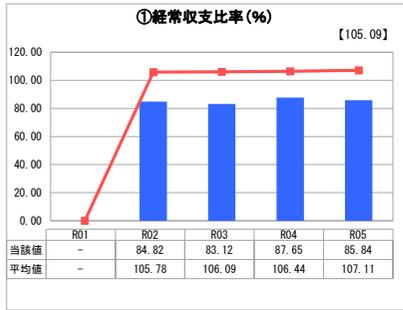
業種名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家賃料金(円)
-	39.69	11.82	99.38	3,300

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
115,475	487.60	236.82
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
13,574	5.63	2,411.01

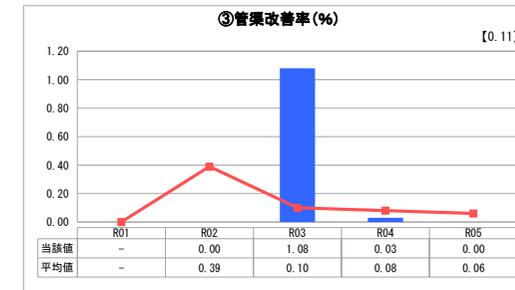
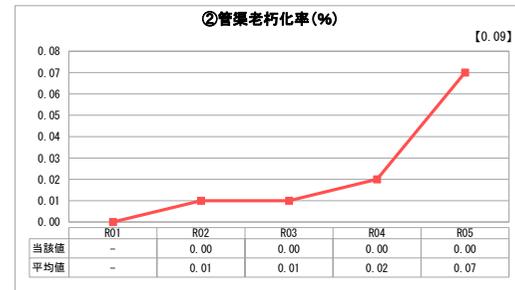
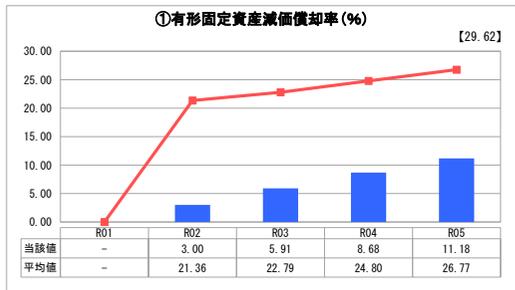
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率について、維持管理費の増加によって収支比率が令和4年度と比べマイナスとなり、依然として100%を下回っている。
 ② 累積欠損金比率について、令和4年度に比べ増加率は減少しているが、累積欠損金を解消できていないため、悪化している。
 ③ 流動比率について、企業債償還金の増加により負債が増加したが、現預金も増加したため、多少改善されている。
 ④ 企業債残高対事業規模比率について、企業債残高が減少したが、使用料収入の減少割合が高かったため、令和4年度に比べ増加となった。
 ⑤ 経費回収率について、下水道使用料の減免により料金収入は減少したが、企業債償還利子の減少等に伴い汚水処理費も減少した。そのため令和4年度に続き、基準となる100%を超える数値となった。
 ⑥ 汚水処理原価について、有収水量は減少したが、汚水処理費の減少割合が大きく、令和4年度に比べて減少している。
 ⑦ 施設利用率について、晴天時平均処理水量が減少したため、若干のマイナスとなっている。
 ⑧ 水洗化率について、水洗便所設置済人口及び処理区域内人口ともに減少となったが、処理区域内人口の減少割合が大きかったため令和4年度より数値が高くなっている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率について、減価償却費は減少したが、除却費が増加したため償却率が上昇している。
 ② 管渠老朽化率については、耐用年数に達した管がないため0%となっている。
 ③ 管渠改善率については、管渠の修繕に関する事業量がないため0%となっている。

全体総括

○ 経常収支比率や累積欠損比率の改善を目指すにあたり、物価高騰等による費用増加や、人口減少等による使用料収入の減少などが課題となってくる。未整備地区の整備や水洗化率の向上に努めることで収入増額の見込みはあるが、数値改善に必要な増額を見込むことは難しいため、料金改定の検討を行う必要がある。
 ○ 今後整備の予定がある地区についても、人口減少の傾向にある。処理能力が過大になることがないよう、投資等の計画を行う。
 ○ 新規整備に加え、今後発生可能性がある管路改良や修繕にかかる費用についても、資金の備えが必要となってくる。現在の経営状況では資金不足が懸念されるため、内部留保資金の確保も必要となる。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。